

時事新報定價
時事新報は毎號八兩乃至十二兩にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價 (海外送付は此他後に)
一號 貳錢五厘〇一箇月 前金五拾錢〇三箇月 前金四拾五錢〇六箇月 前金貳圓八拾五錢〇一箇年 前金五圓六拾錢〇月曜日休刊(此他大祭祝日年拾年未一切休刊せず)

時事新報送付料
一 日本國內並に朝鮮京城、仁川、釜山、元山津、南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加拿大を以て郵送する歐洲各國
一箇月 金六拾錢
三 北米合衆國、英領加拿大、布哇、海峽
一箇月 金三拾錢
四 香港を経て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸島、南洋、露領滿洲、清國諸港
一箇月 金六拾五錢
五 露領滿洲、清國諸港
一箇月 金三拾五錢

本社へ寄稿に付
東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填寫するより各社同一の記事を掲載するも事からず獨り時事新報社に社員並に通信員の多きを以て新聞の社に通信を依頼せずとも世間往々此事を知らずして通信社に「報導すれば本社にも其報道は達する事と信する方多き如し」爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は自ら本社に直接發送せらるるものとすべし

變後の朝鮮
朝鮮の政變は意外の出来事にして世界の耳目を驚かしたり一瞬の暴徒が夜に突如して宮中に闖入し王は驚き逃げ去り國王は身を以て免れ政權は暴徒の手に落ちたりと云へば外國人の考を以てすれば非常の變亂にして國王は閉居の禍を蒙りて一身の自由を失ひ政府の政令は暴徒の勝手次第無政府同様に一國の主權何人の手に在るや知る可らずと思ふも決して無理ならざる考より出でたるものとすべし

よ多年の間夫として室を同うしたる王が一旦不慮の變に遭ひたるにも拘らず恰も其變を企てたる逆賊を咎めずして反對に之を信用して政府の事に當らしめ實際に得色あるが如しと云ふ國王の心事は如何にも不思議にして普通の人情に於て許す可らざるに似たり吾々日本人を始めとして諸外國人の解せざる所なれども朝鮮の國情は自から一種特別にして其特別の事情を悉すに非ざれば個中の消息も容易に解す可らず抑も彼國の政治界に於て權力消長の局に當る貴族士大夫の中に自から宗臣と威臣との別あり宗臣とは現在の王朝なる李氏の社稷を重んじ朝鮮をして眞實國王の天下たらしめんとするものにして威臣は之に反し外威の權力に依拠して自から威福を張らんを欲するものなり然るに外威專横は朝鮮固有の政弊にして二百年來の因習容易に改むるを得ず宗臣の苦心計畫も毎度水泡に歸してすすし其弊を長ぜしめ現在の國氏に至りては殆んど其極度に達し外威に反對したるが爲めに禍に罹りたるものは計ふるに遑ならず王父たる大院君の如き恰も國囚の姿にして處待らざる所なきのみか現に國王の身邊へも安危の程測られずして日夜心を安んじたるもなき程の次第なりと云へば李氏の社稷は實に累卵の有様にして宗臣等の心に於ては此有様を如何に堪へ難く思ひたるや想像に餘りある可し此度の變に生名を博して事後の政局に當りし金安集、金允植、魚允中、徐光範の徒は即ち宗臣の一派にして只管社稷を重んずるものなれば多年の辛苦一舉して外威の禍を除くの決断は前後の相違ふをあれ正しく金玉均の論に異ならず唯前に敗れて後になりたるのみ而して全體の禍源は宮中に存するものと明白なるが爲めに國母の一身輕からずと雖も社稷の重きには換へ難しとて君王を思ふの一途、萬止むを得ずして斯る非常の手段を敢てしたるものとす可し故に其心事は明白にして朝鮮の國情に於ては一般に其舉動を怪しむものなきは勿論、實際は國王自身も雖も妃を失ひたる悲は別として寧ろ不測の危險を脱して大に安心せられたるの情もあるものとならん前報に國王は更に不滿の氣色なきのみか却て事變の結果を喜ばるゝの有様なりと云ふも畢竟斯る事情の在るが爲めならんのみ左れば外國人が彼の政變に驚きたるに引換へ變後の有様を見て更に大に驚きたりと云ふも無理ならぬ次第にして事の真相を觀察するに先づ朝鮮平素の國情を知悉するの肝要なるを知る可し我輩も朝鮮人の報知に接して始めて釋然會心したる者なり

京城特報

京城十月二十五日 小原生

昨今の韓廷 小原生
在滿朝鮮の調査を立ちたる後とて韓廷一般の人氣頗る引立ち此好機を利用するにあらざれば將た何の時を以て改革を實行し得んやと意氣込み日々内閣會議を開きて議院の議案を決定して茲に大改革を行はんと欲し中には頗る急進の議論を唱へ此際斷髮令を施行せんとしたるものさへありし程なれば如何に彼等が卓爾風發せるかを知るに足るべし然るに昨今彼等の胸襟に少しく不安の情を生じたるは我國が從來の如く改革の補助者たり後見人たるや否やを判じ難きに在り勿論現内閣

は當りより最も我國の好意に感じ我國に據りて改革を行ひ以て獨立國の體面を保持せんと熱心せる折柄去る八日の政變は非常に我朝野の感情を刺戟したれば或以日本の對韓策にして從來の趨を一變するものと云ふもの掛念なき能はず若しその掛念にして事實となるものと云ふものは現内閣は到底永續する能はざるや必せり之を思へば今日に於て改革に熱心するも今後の轉變謀り知るべからず日本政府の方針は實に一日も早く聽んふとて希人に切なるや一日尙ほ千秋の感あり云々と或韓人は物議れり而して是れ實に一人の相要ならずして一般の感情なり故に氣早き連中は内々我國に人を派して政府の方針及び民心の傾向如何を探らしめんとを圖り居れり云ふ本日趙秉世、權東鎮、李熙斗、白華路等の諸氏が我國憲法を名として出發したるは又是が爲めならざるなきを得んや然れども相要者復た要ふる勿れ韓廷の現任閣員を去つて誠實公平に且つ一身を犠牲にして國務に奮勵せば改革の實現せしめて至るべし今日の要は唯閣員の自信と協力にあるのみ

王后 棟樑
一昨晚宮内府大臣は王后棟樑の事を奏上したるに大君主陛下は直に之を採納し十五歳より二十歳に至る迄の處女を取調べ奏上すべき旨を仰出されたり而して目下候補者四五名ありと噂す秘密にして之を知り得ざればもその意々確定するも近日の内なるべしと

小村辦理公使の參内
小村辦理公使は本日午前十時分通譯官を隨へ參内したり

大院君初めて雲峴宮に歸る
去る八日の政變以來始終宮城内に在りたる大院君は今朝初めて雲峴宮に歸りたるが久しく宮庭を張りたる雲峴宮前再び肩輿の來往するもの頻繁なるを見る而して同君は又直に引返して參内したりと云ふ

守備隊幹部の更迭
當地守備隊の大隊長馬原少佐、中隊長藤戸、村井馬水の三大尉は今般其職より歸朝を命ぜられたるを以て目下駐在中の宇佐川中佐代りて大隊長の事務を取扱ひ藏田大尉第一中隊長に、佐久間大尉第二中隊長に、西村中尉第三中隊長に補せらるる又は迄大隊副官たりし管井中尉は第三中隊長心得に補せられたり猶ほ歸朝を命ぜられたる馬原少佐の一行は一兩日中に歸國するならん

杉村氏以下の送別會
今回其簡より歸朝を命ぜられたる杉村書記官、石塚廣間官、萩原警部は何れも今朝若くは明朝出發するを以て昨夜巴城館に於て送別の宴を開く、會するもの百餘名、酒興を盡して歡會したるは十時頃なりし

渡邊少佐再び公使館附となる
過般補給中佐歸朝を命ぜられたるを以て前公使館附渡邊砲兵少佐其後任を襲きたり

内部吏員の總辭職
倉内内部署理が内部吏員一同に向つて事務溢滿する旨を述べて一二百餘名したるに内部吏員は直に總辭職を申出で今尙ほ悶着中なりと云ふ

内地及び臺灣
○内地及び臺灣
比北緯三十四度以南の諸島を以て今據るものとすべし
千八百八十六年
同 八十七年
同 八十八年
同 八十九年
同 九十年
同 九十一年
同 九十二年

生絲の統計
六個、實込萬四千三百
十八個、内地輸出四四四
○米露石油の産
二箇に付の調査
ザリく安の有様
なり左に目下の呼
米露(チヤスタ)
スモタ

商船扶桑丸
十二海里)は千八
之を所有して重に
及び南洋諸島を航
福山の岩田榮藏氏
加え此船工せし
航海使用の許可も
向け運航する由同
り云ふ

准士
左記受給者の氏名の上
一、市川三郎
二、市川三郎
三、市川三郎
四、市川三郎
五、市川三郎
六、市川三郎
七、市川三郎
八、市川三郎
九、市川三郎
十、市川三郎